

企業視察

はじめに

技術職員が関わる実験、実習、研究支援等の日頃の業務内容を踏まえ、実践的な高専教育に対して、新しい取り組みの発案、創意工夫、業務改善に繋がることを期待し技術室の学外研修として長崎県、佐賀県、福岡県の企業を対象とした企業視察を年に1度実施している。視察先の企業においては、先端技術の一端を垣間見ることができるとともに、本校学生が就職する可能性が高い分野の事業内容を知ることができる。また視察先に勤務する本校卒業生との意見交換等においては高専教育に対する具体的な要望や意見を聞くことができる。

【平成26年度】

視察企業 ANAコンポーネントテクニクス株式会社 長崎事業所

日時 平成25年12月5日 13時30分～15時30分

<実施報告>

ANAコンポーネントテクニクス株式会社長崎事業所は、成田、羽田空港から空輸されてくる定期検査のために取り外されたフライト関連計器、電装装備品、客室装備品、無線装備品、ランディングギア（着陸装置）、空圧装備品、油圧装備品、発電機等の点検整備を担っている。点検整備された装置等は、整備対象の航空機へ取り付けられる。また、整備作業に欠かせない計測器の校正業務、機内エンターテイメント関連のメンテナンスも担い、ANAグループ装備品全般の品質の向上を日々追求し続けている。

工場見学中はANAグループ全体の業務内容並びに長崎事業所でのメンテナンス事業について詳しくお話いただいた。また、就業中の安全管理について意見交換ができた。航空機メンテナンスに必要な計測機器等が数多くあったが、初めて見るものが多かった。工場等においては、作業スペースのレイアウトが作業自体をスムーズに行えるよう、作業台の大きさ、配置位置が工夫されていた。また工具が使用中である場合は目視でわかるように工夫されていた。このような取り組みが高い作業効率性の確保と労働衛生環境保全の実現につながると感じた。また本校機械実習担当者は参考になる部分が多かったようだ。

【平成 26 年度】

視察企業 日本精工九州株式会社

日時 平成 26 年 8 月 6 日 13 時 00 分～15 時 00 分

＜実施報告＞

日本精工九州株式会社は、1996 年 4 月に福岡県うきは市に設立され自動車用ステアリング関連部品を中心とした生産拠点として稼動開始し、XY テーブルや特殊環境用軸受け、ボールねじ等の生産を行っている。九州内で就職を希望する本校学生にとっては非常に人気が高く、現在では多く卒業生がこの会社に入社している。うきは市にある日本精工九州株式会社本社においては、主に付加価値が高い製品に関する研究、開発、特注品生産に力を注いでいる。

工場見学の前に、日本精工九州株式会社の人事担当者、技術者(本校卒業生)を交えて、企業としての取り組み、高専に求める人材などについて意見交換を行った。うきは市の本社では、研究、製品開発、生産技術開発に力を入れ、その成果を海外事業所、工場へ展開する形をとっていて、今後はさらに海外工場での生産を増強する計画と説明があった。また、求める人材は自分で考えて行動できる学生が好ましいということだった。工場見学で案内してくれた本校卒業生の話によると、工作機械を購入しても、自社が要求する仕様・精度に改造し現場で使用するということが多かった。技術力が高い企業の証拠だと感じた。工場内は目的と役割によって区画が分けられており作業効率と安全性の確保を考慮されていることが見てとれた。



【平成 27 年度】

視察企業 株式会社 唐津鐵工所

日時 平成 27 年 8 月 7 日 13 時 30 分～15 時 00 分

<実施報告>

株式会社 唐津鐵工所は明治 42 年に創業し、現在は大型・超大型の横軸の旋盤、研削盤と歯車加工機械を製造、販売している。今日は、世界の大型工作機械の有力ブランドの地位を確立している。

人事担当者より、企業の歴史、成り立ち、企業活動として現在どういう分野に力を注いでいるか、また高専に求める人材などについて意見をいただいた。また入社時における新入社員教育には、厳しい教育課程を設けており、例を挙げると、研修中はしばらく汎用機で金属加工を身につけ、鉄等の材料を十分に体と頭で理解した後に NC 等の数値制御を用いた工作機の使用が許されるそうである。事業としては、最近は自動車用部品製造のための加工機の受注が増えている。しかし、自動車業界の景気の変化に対応した生産体制の確立が課題となっていて、現在は顧客に要求に対応できずお断りしなければならないこともあり頭を抱えているようだ。もう 1 つの主力製品は発電機用タービン軸等を加工する機械で、大きい鉄の塊を棒状に加工し、回転軸中心の偏心は 5 ミクロン以下の加工精度を実現する製品である。

新製品としては、スカイピング加工を用いる加工機で、従来の加工機の 5 分の 1 程度の時間で加工が済むそうである。唐津鐵工所としては主力製品の一角を担うような製品に育てたいとのことであった。この工作機械の開発等においては、本校卒業生が中心となって進めている。

